―販売店 ・設置業者様へ―
本書は必ずお客様へお渡しください。

KOITO

# 電気炉

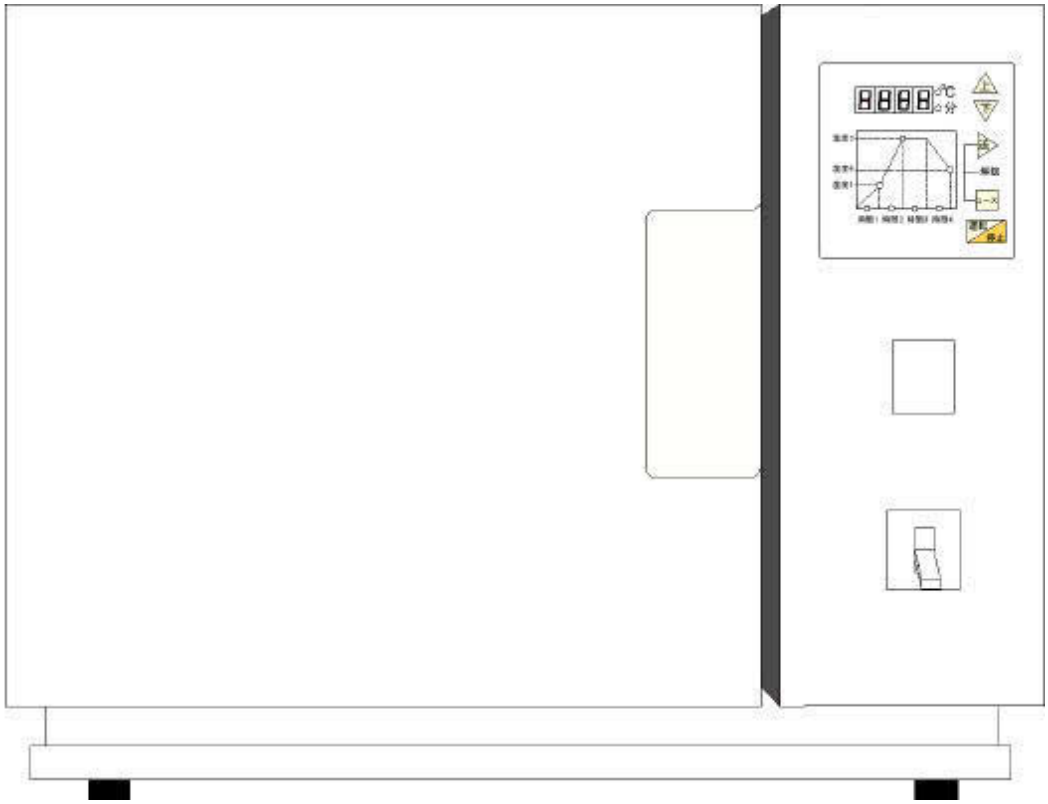
あ や か

KCA-31N

# 彩火

# 取扱説明書

保証書付



## もくじ


| | ページ | | ページ |
|---|---|---|---|
| 安全上の注意 | 1 | 時間延長機能について | 17 |
| 設置方法及び保管場所 | 6 | 空冷ファンについて | 18 |
| ご使用上の注意 | 7 | 電気炉のお手入れ | 18 |
| 各部のなまえ | 8 | 仕様 | 19 |
| 扉ロックについて | 10 | 定期点検 | 19 |
| ご使用になる前に | 11 | 修理を依頼される前に | 20 |
| 運転を開始する | 12 | 廃棄の方法 | 20 |
| 運転中の操作 | 16 | | |

# 安全上の注意

**重要**

この取扱説明書を必ずお読みになり、 よく理解した上でご使用ください。
ご使用になる方がこの取扱説明書をいつでも読めるようにしてください。

この説明書では、 商品を安全に正しくお使いいただくために、 必ずお守りいただくことを ⚠ **危険** , ⚠ **警告** ,⚠ **注意**の表示によってお知らせしています。

**危険**

**この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。**

**警告**

**この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。**

**注意**

**この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性、または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を示しています。**

**■お守りいただく内容の種類を、 次の絵表示で区分し説明しています。**
**（下記は、 絵表示の一例です。）**

**このような絵表示は、気をつけていただきたい 「注意喚起」 内容です。**

**このような絵表示は、してはいけない 「禁止」 内容です。**

**このような絵表示は、必ず実行していただく 「強制」 内容です。**

# 危険

自分で分解 ・修理 ・改造を行わないでください

**感電や発火したり異常動作をしてけがのおそがあります。**

通気口や隙間にピンや針金などの金属物や、異物、指を入れないでください

**感電や、やけど ・ 指の挟み込みなどのけがのおそれがあります。**

焼成時には必ず換気をしながら焼成してください

**初回焼成時にはにおいや有害なガスが発生するおそれがあります。**

# 警告

定格15A以上のコンセントを単独で直接お使いください

**他の器具と併用した分岐コンセントを使用したり、延長コードを使用すると、異常発熱及び他の器具が正常に作動しないおそれがあります。**

電源プラグの刃 ・刃の取付面に付着したほこりは拭き取ってください

**ほこりが原因で発火するおそれがあります。**

電源コードを傷つけないでください

**加工する ・ 無理に曲げる ・ 引っ張る ・ ねじる ・ 重いものを載せる ・ 挟み込むなどをすると電源コードが破損し、火災、感電の原因になります。**

傷んだ電源コードや電源プラグ及びコンセントの差し込みが緩い時は使用しないでください

**感電 ・ ショート ・ 発火の原因になります。**

**プラグ部分が高温になっていないか確認してください。**

燃えやすいものや熱に弱いものを近づけないでください

**畳 ・ じゅうたん ・ テーブルクロスなど敷物の上に置いたり、燃えやすいものやカーテン ・ スプレー缶を近づけると引火や破裂するおそれがあります。**

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで絶対に使わないでください

**やけど、感電、けがのおそれがあります。**

運転中および高温時は、 取っ手部及び操作部以外の箇所に手を触れないでください

**やけどのおそれがあります。**

使用中に電源プラグを抜き差ししないでください

**感電や火災の原因になります。 また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**

漏電遮断器 ・D種接地工事(アース)を行ってください

**故障や漏電の時に感電するおそれがあります。**

電源コードを束ねたまま使用しないでください

**コードが発熱し火災の原因になります。**

炉内が高温の時は扉を開けないでください

**やけど ・ 火災 ・ けがのおそれがあります。**

**棚板やＬ型支柱が割れて、くずれ落ちるおそれがあります。**

焼成中は窓を開けて十分換気してください

**絵具や転写紙及び溶剤などからにおい及び有害なガスが発生するおそれがあります。**

破裂や発火、 または有害なガスが発生する恐れがあるものを炉内に入れて運転しないでください

**破裂や発火、 有害なガスが発生するおそれがあります。**

長時間使用しない時は電源プラグを抜いてください

**絶縁劣化などで、感電 ・ 漏電 ・ 火災の原因になります。**

電源プラグを抜く時は電源コードをもって引き抜かないでください

**電源コードをもって引き抜くと感電 ・ ショートして発火するおそれあります。**

壁などとの間はあけてください

**周囲を１５cm(上面及び正面を含む２面以上の周囲を１００cm)以上あけないと、過熱して発火するおそれがあります。**

空冷ファン、 通気口をふさがないでください

**火災の原因になります。**

直射日光の当たるところで使用しないでください。

**過熱してやけどや発火するおそれがあります。**

電源コードや電源プラグは通気口や温度の高い部分に近づけないでください
**火災 ・ 感電の原因になります。**

交流１００Ｖ以外では使用しないでください
**火災や感電の原因になります。**

ほこりは定期的に除去してください
**空冷ファンのファンガードなどにほこりがたまると、 火災の原因になります。**

# 注意

雨や水のかかる場所、 湿気の多い場所で使用しないでください
**感電や漏電の原因になります。**

ヒータにさわらないでください
**感電ややけどのおそれがあります。**

作品や試験物、 及び棚板をヒータや断熱材にぶつけないでください
**感電や漏電の原因になります。**

不安定な場所や水平でない場所に置かないでください
**落ちたり倒れたりしてけがや変形の原因になります。**

開いている扉に、荷重をかけたり、 ぶら下がったりしないでください
**本体の転倒や、落下してけがのおそれがあります。**

本体の上に物を置かないでください
**過熱して焦げたり、変形することがあります。**

運転中及び運転終了後すぐに電源を切らないでください
**空冷ファンが停止して本体表面及び扉部の表面温度が高くなり、 やけどのおそれがあります。 炉内温度が９０℃以下になるのを待って電源を切ってください。**

炉内の収容物を取出す場合は、 炉内の温度が低くても火ばさみや耐熱手袋を使用して取出してください
**やけどのおそれがあります。**

扉の開閉は慎重に行ってください

**指を挟み込んでけがのおそれがあります。**

ペットを近づけないでください

**ペットがけがのおそれがあります。 また、 本体や電源コードを傷めた場合、 故障または火災の原因になります。**

停電直後は製品にさわらないでください

**空冷ファンが停止して本体表面および扉部の表面温度が高くなり、 やけどのおそれがあります。**

# お願い

テレビ ・ラジオ ・アンテナ線などに近づけないでください

**画像の乱れ、雑音の原因になります。**

**２m以上離してください。**

# 設置方法及び保管場所

1. 設置場所及び保管場所には以下のような場所をお選びください。

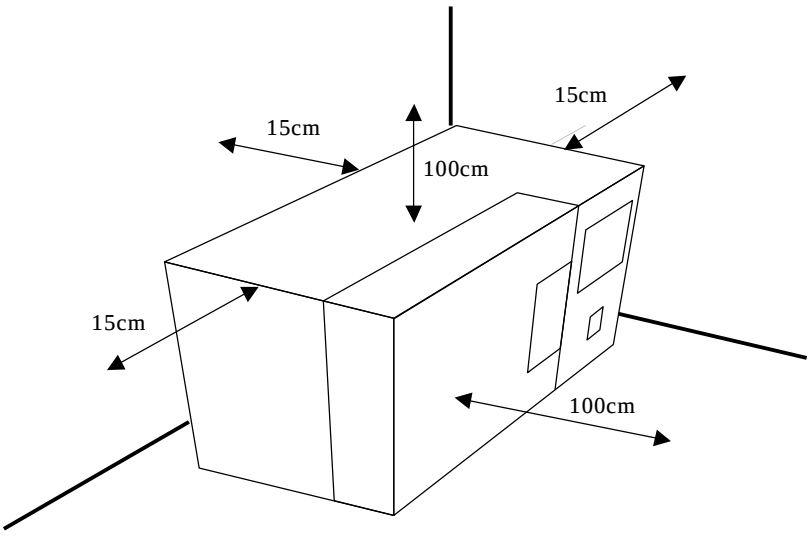
**☆水平なしっかりとしたところ　　☆水気のないところ**
**☆雨や水がかからないところ　　☆アース線が接続できるところ**
**☆振動,衝撃のないところ　　☆塵埃の少ないところ**
**☆換気ができるところ　　☆風通しの良いところ**
**☆耐荷重70kg以上のところ**
**注)横置き・天地逆置きの禁止(段積みは2段まで)**

2. 本体の重量は約51kgですので、必ず2人以上でお運びください。
（本体下部を持ってください。　取っ手や扉を持たないでください。）

3. アース線は必ず接続してください。
（アース線に触れる時は、必ず電源プラグを抜いてください）

4. 15A以上のコンセントを単独で使用してください。
（他の器具との併用や、延長コード、コードリールなどを使用すると、
異常発熱及び他の器具が正常に作動しないおそれがあります）
（コンセントの差し込みが緩くないことを確認してください）

5. 壁などとの間はあけてください。
・上面及び正面を含む2面以上の周囲を100cm以上開放してください。



# ご使用上の注意

1. くり返して使用していると断熱材の表面にひびが入ることがありますが、
   ご使用には問題ありません。
   (断熱材の損傷が大きくなった場合は、安全性および性能に影響します。
   販売店にご相談ください)

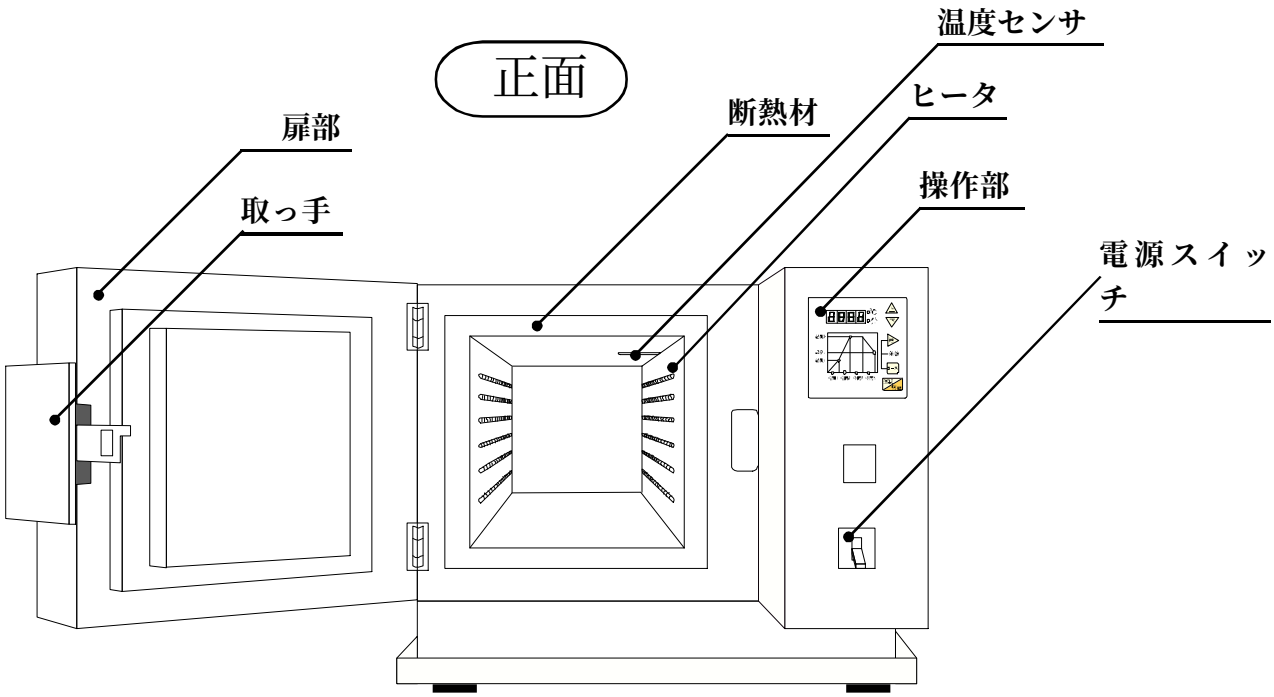
2. 電源を入れないと扉を開けることはできません。(無理に開けないでください)

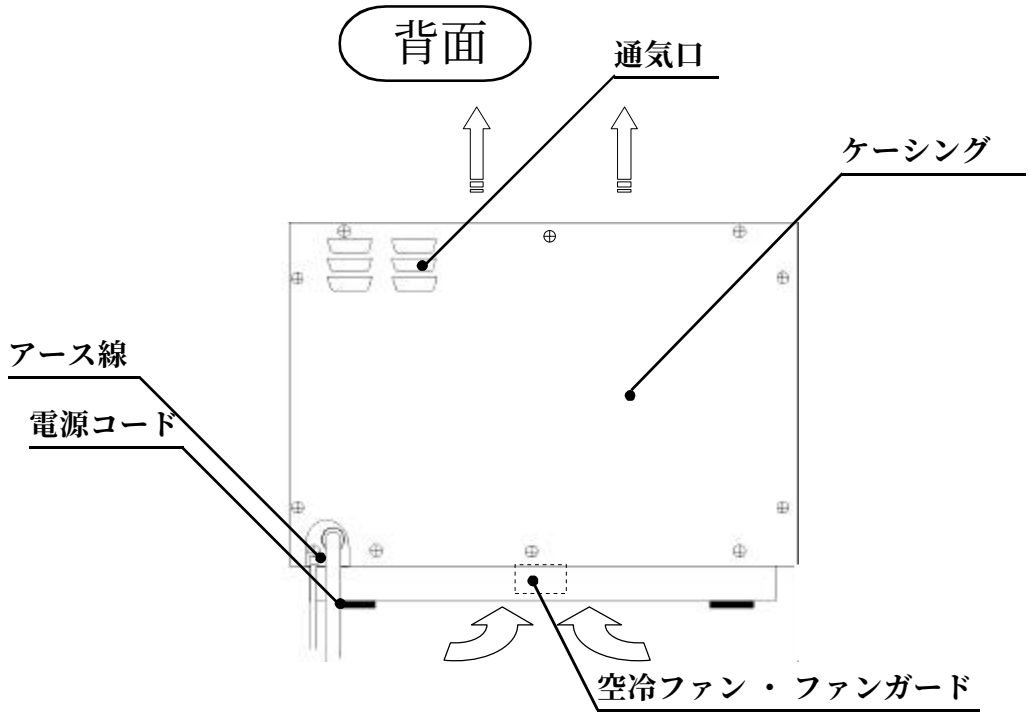
3. 初めに空炊きを行ってください。(11 ページをご覧ください)

4. 焼成時、電源プラグの部分が高温になっていないか確認してください。
   (火災の原因になります)

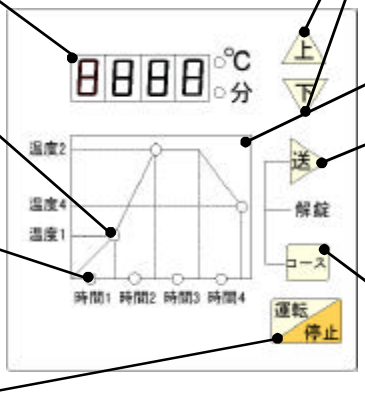
5. 焼成中は必ず換気を行ってください。
   絵具や転写紙及び溶剤などを使用すると、有害なガスが発生するおそれがありますので、十分な換気を行ってください。また、取扱には注意が必要となります。

# 各部のなまえ


正面
温度センサ
ヒータ
断熱材
扉部
操作部
取っ手
電源スイッチ


背面
通気口
ケーシング
アース線
電源コード
空冷ファン・ファンガード

## 操作部




■数値表示部

■温度ランプ

温度の設定位置を示します。

■時間ランプ

時間の設定位置、または運転中の位置を示します。

■運転／停止キー

運転の開始・停止を行う時に使用します。

■上下キー

温度および時間の設定を行う時に使用します。

温度：０～９００℃

時間：０～９９５分

■パターン表示部

■送りキー

プログラムの設定・確認を行う時に使用します。

■コースキー

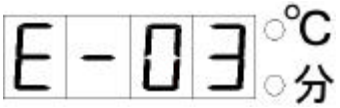
プログラムの設定を行う時に使用します。

## 数値表示部

「℃」のランプが点灯している時、左側の数字は温度を表しています。

「分」のランプが点灯している時、左側の数字は時間を表しています。

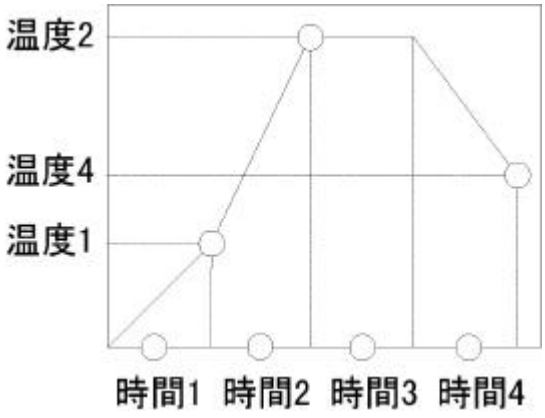
（コース番号表示）




（エラー表示）

「℃」、「分」のランプが消灯している時、左側の数字は、コースNo.やエラー番号を表示しています。

## パターン表示部




時間１：１段階目の温度に達するまでの時間
温度１：１段階目の温度
時間２：２段階目の温度に達するまでの時間
温度２：２段階目の温度
時間３：２段階目の温度を保持する時間
時間４：４段階目の温度に達するまでの時間
温度４：４段階目の温度

# 扉ロックについて

**安全にお使いいただくために、次の場合は扉がロックされます。**
**（無理に開けないでください）**

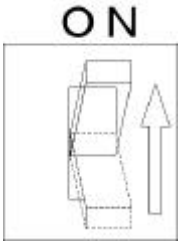
- **電源が入っていない時**
- **運転中の時**
- **炉内温度が 90 度以上の時**

**電源が入っていれば、扉ロック中でも解錠操作によって扉を開けることができます。**
**操作する場合は安全に十分配慮して行ってください。**

**（解錠操作方法）**
**コースキーを押しながら送キーを押します。 （ランプが点滅します）**

**操作後 5 秒以内に扉を開けなければ再びロックします。**

# ご使用になる前に

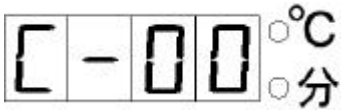



・初めてご使用の前には必ず空焚きを行ってください

☆空焚きの方法

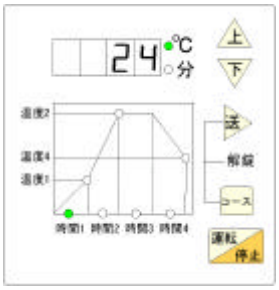
1．　電源スイッチをONにしてください。
　※電源を入れないと扉は開きませんので無理に開けないでください。

2．　扉を開けて、炉内に何もないことを確認してください。
　（棚板、サイコロも入れないでください）
　確認後、扉を閉めてください。




3．　コースキーを押して数値表示部を　「C－００」　にさせます。
　（コースキーを押す前に　「C－００］　が表示されていてもコースキーを押してください）

4．　運転／停止キーを押します。




以上の操作が完了すると・・・

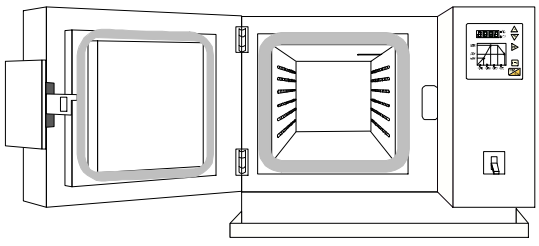
数値表示部が現在の炉内の温度を表示し、運転が開始されます。
時間ランプがすべて消灯すれば終了です。
（空焚き終了までに６時間かかります。 その後電源をＯＦＦするのは炉内温度が３００℃以下になってからにしてください）

**注意**

・初回焼成時にはにおい及びガスが発生しますので、必ず窓を開け十分換気をしながら空焚きを行ってください。
（初回焼成時、 濃度により有害になるガスが発生する可能性があります）

**注意２**

・空焚き終了後、断熱材に焦げが残りますが、製品の性能には問題はありません。



# 運転を開始する

## 固定コースで運転する　(コースNo. 00～05)

**固定コースは、プログラムの設定が不要でお手軽に焼成できます。**

### 運転方法

1. 電源を入れる

   **電源スイッチをONにしてください。**

   **※電源を入れないと扉は開きませんので無理に開けないでください。**

   **数値表示部が 「C-00」 となります。**

2. 扉を開け作品・試験物を入れる　(必要に応じて棚板を敷いてください)

   **断熱材やヒータにぶつからないように注意して入れてください。**

   **※炉内温度が90℃以上の時は、扉ロックがかかっていますので無理に開けないでください。**

   **(解錠操作でロックを外すことができます ： P10 参照)**

   **扉を閉めます。**

3. コースの種類を選択する

   **コースキーを押し、上下キーでコースNo.００～０５のうち、お好きなコースを選んでください。**

   **※コースの内容については、 裏表紙を参照してください。**

4. 運転を開始する

   **コース選択後、運転／停止キーを押し運転を開始してください。**

   **扉ロックがかかります。**

5. 運転終了

   **設定したコースが終了すると、時間ランプが消灯し、炉内温度が表示されています。**

   **炉内温度が90℃以下になるのを待ち、扉を開けてください。**

***注意***

- **仕上がりは、作品 ・ 試験物の数や位置によって多少変わります。**
- **思うような仕上がりにならない場合は、 固定コースの値を参考にして自由コースに設定し、お好みに応じて時間、温度を調整してください。**

## プログラムを設定して運転する　(自由コース No. 10～39)

### 1. 電源を入れる

**電源スイッチを ON にしてください。**

**※電源を入れないと扉は開きませんので無理に開けないでください。**

**数値表示部が 「C－００」 となります。**

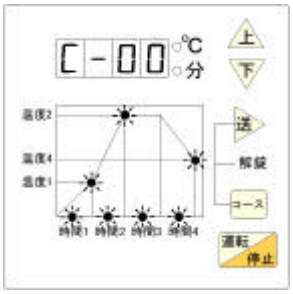
### 2. 扉を開け作品を入れる　必要に応じて棚板を敷いてください)

**断熱材やヒータにぶつからないように注意して入れてください。**

**※炉内温度が９０℃以上の時は、扉ロックがかかっていますので無理に開けないでください。**

**(解錠操作でロックを外すことができます ： P10 参照)**

**扉を閉めます。**




### 3. コースキーを押す

**ランプが全点滅します。**

### 4. コースを選択する

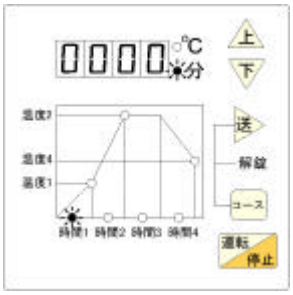
**上下キーで設定したいコースＮｏ.に合わせます。 （Ｎｏ.１０～３９）**

C-10 ℃ 分 ～ C-39 ℃ 分

**コース選択後、送キーを押すと炉内温度が表示されます。**

**もう一度押すと次の設定に移ります。**

### 5. 時間 1を設定する

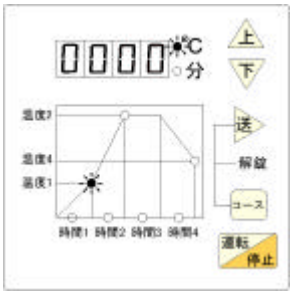



**時間１のランプが点滅していることを確認します。**

**上下キーで設定したい時間に合わせます。 （０～９９５分）**

**設定後、送キーを押して次の設定へ移ってください。**

### 6. 温度 1を設定する

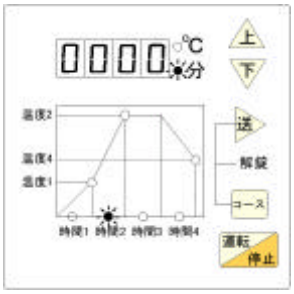



**温度１のランプが点滅していることを確認します。**

**上下キーで設定したい温度に合わせます。 （０～９００℃）**

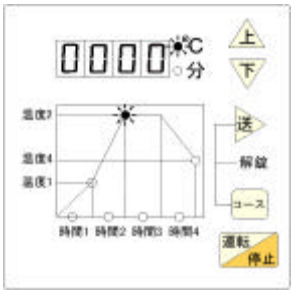
**設定後、送キーを押して次の設定へ移ってください。**

7.　時間 2を設定する



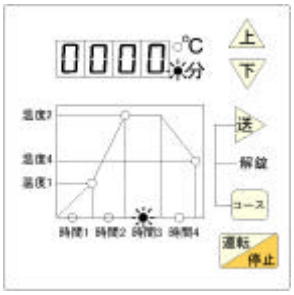
**時間２のランプが点滅していることを確認します。**
**上下キーで設定したい時間に合わせます。　（０～９９５分）**
**設定後、送キーを押して次の設定へ移ってください。**

8.　温度 2を設定する



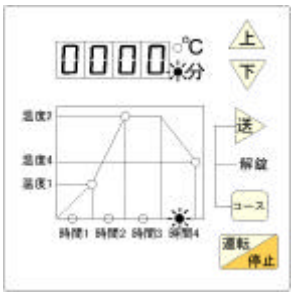
**温度２のランプが点滅していることを確認します。**
**上下キーで設定したい温度に合わせます。　（０～９００℃）**
**設定後、送キーを押して次の設定へ移ってください。**

9.　時間 3を設定する



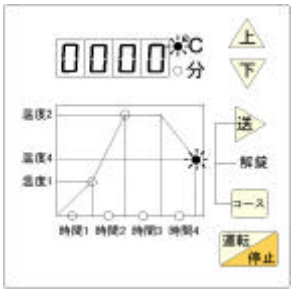
**時間３のランプが点滅していることを確認します。**
**上下キーで設定したい時間に合わせます。　（０～９９５分）**
**設定後、送キーを押して次の設定へ移ってください。**

10.　時間 4を設定する



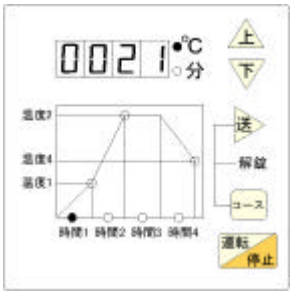
**時間４のランプが点滅していることを確認します。**
**上下キーで設定したい時間に合わせます。　（０～９９５分）**
**設定後、送キーを押して次の設定へ移ってください。**

11.　温度 4を設定する



**温度４のランプが点滅していることを確認します。**
**上下キーで設定したい温度に合わせます。　（０～９００℃）**

12. 運転を開始する。




**コースキーを押してください。**
**数値表示部がコースNo.を示していることを確認してください。**
**運転／停止キーを押すと、 各表示部に現在の炉内温度と実行中の段階が表示され、運転を開始します。**

13. 運転終了

**設定したコースが終了すると、時間ランプが消灯し炉内温度が表示されています。**
**炉内温度が９０℃以下になるのを待ち、扉を開けてください。**

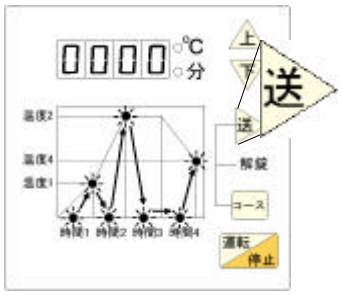
***注意***

- **設定した内容は電源を切っても記憶されています。 同じ内容で運転する場合はコース選択して運転／停止キーを押してください。**
- **温度および時間の設定間隔は５℃(分)です。**
  **上下キーを１回だけ押すと５℃(分)毎に値が増減し、 押しっぱなしにすると早送りができます。**
- **表示部がコースNo.を示していないと運転は開始できません。**
- **炉内温度が９０℃以下にならないと扉を開けることができません。**
  **（扉ロック解除についてはP10 参照）**
- **炉内の温度が低くても、作品 ・ 試験物自体は温度が高い場合があります。 火ばさみや耐熱手袋を使用して取り出してください。**
  **（やけどのおそれがあります）**
- **扉が開いている状態で運転を開始することはできません。 （Ｅ－０３が表示されます）**

# 運転中の操作

## 1. プログラムの確認

**運転中に送キーを押すと現在のコースNo.のプログラム内容が確認できます。**
**送キーを押す毎に**
**→炉内温度→時間１→温度１→時間２→温度２→時間３→時間４→温度４→**
**の順番で設定値が確認できます。**




**（注意）**
**・ 運転中は プログラムの変更はできません。**

**また、運転中にコースキーを押すとコースNo.の確認ができます。**

**プログラム内容およびコースNo.確認の状態で１０秒間キー操作がなかった場合、自動的に炉内温度、実行中の段階の表示状態に戻ります。**

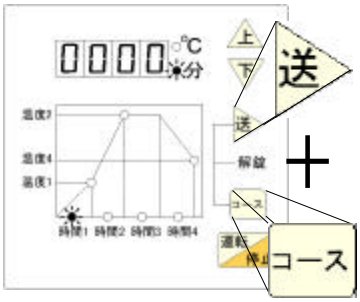
## 2. 運転の中断

**運転を途中で止めたい時は、運転／停止キーを押してください。**

**（注意）**
**・ 中断したプログラム位置からの再開はできません。**

## 3. 扉の解錠

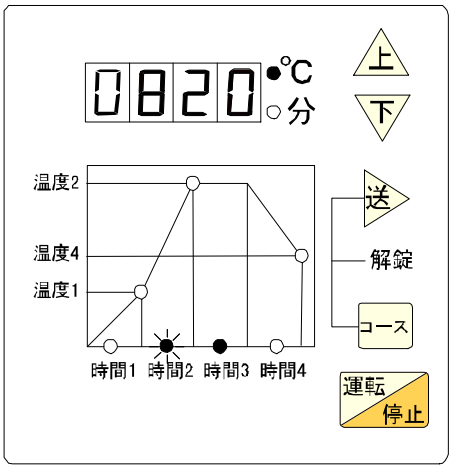
**コースキーを押しながら送キーを押すと運転中でも扉の解錠が可能です。**
**（操作後５秒間有効、この間はランプが点滅します）**




**（注意）**
**・ 運転中の炉内は高温になっており大変危険ですので、**
**非常時以外は使用しないでください。**
**・ 解錠中はプログラムの進行は中断します。**
**・ 解錠中はヒータはＯＦＦします。**
**・ 取っ手のレバーを操作した時も、ランプが点滅しますが、**
**この時は解錠状態ではありません。**

# 時間延長機能について

時間２を運転する場合、時間２に設定した時間内に炉内温度が （温度２設定値－５℃） 以上に達しない場合は、自動的に時間が延長されます。 但し、延長時間の限度は時間２に設定した時間の５倍までです。 それを超えると 「Ｅ－０４」 が表示され停止します。
（例えば、時間２＝１５０分と設定すると、設定温度に達するまで、時間２は最大７５０分まで延長されます）
延長があった場合は、時間２のランプが点滅します。
下図は、時間延長後、時間３を実行している状態です。



# 空冷ファンについて

**本体の下部に取付けられている空冷ファンは、ケーシングの表面温度が高温になるのを防ぐ役目をしています。**
**次の内容を理解した上でご使用ください。**

1. 空冷ファンのON
   **本体の電源スイッチをＯＮにしている間は回っています。**

2. 空冷ファンをＯFF　電源スイッチのＯFF）して良い条件
   **運転終了後、炉内温度が９０℃以下になってから電源をＯＦＦしてください。**
   **（炉内がまだ高温の時に電源をＯＦＦすると、ケーシングの表面温度が上がり危険です。）**

3. 空冷ファンに関係したトラブル
   - **空冷ファンが正常に動作しなかった場合や、炉内温度が３００℃以上の時、電源をＯＦＦ(停電した場合も同様)した場合に、ケーシングの温度が上昇し、安全装置が作動する場合があります。**
   - **安全装置が作動中は、電源をＯＮしても「Ｅ－０２」が表示され、操作部のキー操作ができません。**
     **その場合は、空冷ファンを回したままケーシングの温度が下がるのを待って電源を再投入し、「Ｅ－０２」の表示が出ないことを確認してください。**
     **(電源ＯＮのままでは、安全装置が解除になっても、自動復帰しません。電源の再投入が必要です。)**

# 電気炉のお手入れ

- **お手入れは、 必ずスイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。**
- **外側はかたく絞ったぬれぶきんで拭きとってください。**
  **（クレンザーや中性洗剤などの洗剤を使用すると、 本体を傷つけますのでおやめください。）**
- **炉内の清掃は、 掃除機などでほこりを吸い取ってください。**
- **断熱材の清掃は行えません。 釉薬などは絶対にこぼさないでください。**
  **（断熱材を拭くなどは絶対に行わないでください。）**
- **本体下部空冷ファンのファンガードの清掃は、 掃除機 ・ ハケなどでほこりを除去してください。**

# 仕様

| 項　　目 | 内　　容 |
|---|---|
| 形　　式 | KCA-31N |
| 電　　源 | 単相100V　50/60Hz |
| 消 費 電 力 | 1.45 kW(初期定格) |
| 最 高 使 用 温 度 | 900℃ |
| 焼成コース | 36コース 空焚き1,固定5,自由30) |
| ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ制御 | 4ｽﾃｯﾌﾟ |
| 外 形 寸 法 | 幅 650×奥行 560×高さ540 |
| 炉 内 寸 法 | 幅 320×奥行 320×高さ300 |
| 容　　積 | 30.7 ﾘｯﾄﾙ |
| 重　　量 | 約51.0 kg |
| 周囲使用温度範囲 | 0℃ ～ 40℃ |
| 安全装置 | 炉内温度ﾘﾐｯﾀ装置, ﾊﾞｲﾒﾀﾙｻｰﾓｽﾀｯﾄ<br>温度ﾋｭｰｽﾞ |
| 付属品 | 棚板　2枚<br>I型支柱　150H　3個<br>I型支柱　90H　6個<br>I型支柱　60H　6個<br>サイコロ　4個 |

・この製品は、日本国内用に設計されています。海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
・電源は最大出力時にAC96V以上の電圧が供給できる電源をご用意ください。
・次の場合は電圧がAC96V以下になる場合があります。
その場合は十分な性能が出ませんので販売店にご相談ください。
分岐ブレーカと使用しているコンセントの間の配線が長い場合。
配線サイズが細い場合。
・15Aの分岐ブレーカから電源を供給している場合、電源電圧が高い時や、分岐ブレーカの周囲温度が高い場合にはブレーカが作動することがあります。
・@»ìêǂÉÍA20A,ìȨ̀ÍÆÉÅ;µA'z̧ÈÇÝQ6,Ü½Ì5mm²以上にしてください。
電気工事店に依頼してください)
・ヒータは使用回数、最高使用温度によって性能が劣化してきます。十分な性能が出なくなった場合はヒータの寿命が考えられます。販売店にご相談ください。

# 定期点検

1. 電源コード・プラグが異常に熱い。
2. 電源コードに深いキズや変形がある。
3. 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
4. 普段と異なる音がする。
5. その他の異常や故障がある。

↓

直ちに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店もしくは当社までご連絡ください。

# 修理を依頼される前に

**警告**　**自分で分解 ・ 修理 ・ 改造を行わないでください。**
**感電や発火したり異常動作をしてけがのおそれがあります。**

**次のような場合は、表の内容にしたがって点検 ・ 処置を行ってください。**

| 現象 | 点検および処置内容 |
|---|---|
| 電源が入らない | ・停電していませんか？<br>・配電盤のブレーカが切れていませんか？<br>・電源プラグが抜けていませんか？ |
| 扉が開かない | ・電源は入っていますか？<br>・ロックがかかっていませんか？<br>→ 炉内温度が90℃以下になるのを待つか、解錠操作をしてください。（P10参照） |
| 運転が開始されない | ・表示部がコースNo.以外を表示していませんか？<br>→ **コース**キーを押し、コースNo. を表示した状態で**運転／停止**キーを押してください。<br>・表示部が「E－03」を表示していませんか？<br>→ 扉が閉まっていることを確認して、運転を開始してください。 |
| 作品がうまく焼けない（温度が足りない） | ・運転中に停電はありませんでしたか？<br>→ 最初から設定をやり直してください。 |
| 煙やいやな臭いが出る | ・空焚きは行いましたか？<br>→ 初めて運転を行う時や、ヒータや断熱材の交換後の最初の運転時には臭いや煙が出ます。 |
| 自由コースのデータが記憶されない | ・設定の最後に**コース**キーを押さずに終了していませんか？<br>→**コース**キーを押すと記憶されます。 |
| 運転終了時間になっても停止しない | 運転中に解錠して扉を開けませんでしたか？<br>→扉を開けていた時間分、運転時間が延長されます。 |
| 「E－04」が表示される | ・作品や棚板をつめすぎてませんか?<br>・「時間2」を短く設定してませんか?<br>・設定した最高温度まで炉内温度が到達していますか?<br>→到達しない場合は、電源電圧降下やヒータの寿命が考えられます。販売店へご相談ください。 |
| 「E－03」が表示される | ・扉を開けたまま**運転／停止**キーを押しましたか？<br>→扉を閉めて**運転／停止**キーを押してください。 |
| 「E－02」が表示される | ・本体下部のファンガードにほこりがたまっていませんか？<br>→ほこりを除去してください。<br>・炉内温度が高温の時電源を切りませんでしたか？<br>・または停電がありませんでしたか？<br>→再び電源を入れ（ファンが回り、早く冷却します）2時間ほど放置した後、電源を切り数秒後、電源を入れてください。 |
| 「E－01」が表示される | ・炉内上面にある温度センサに物をぶつけませんでしたか？（温度センサが割れていませんか？）<br>→温度センサの交換が必要です。販売店へご相談ください。 |

**上記のことをお調べいただき現象が改善されない場合は、 直ちに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店もしくは当社までご連絡ください。**

## 廃棄の方法

- **各自治体によって廃却方法が異なりますので、 自治体へご相談ください。**
- **廃棄の際は分解しないでください。 （粉じんが出ます）**